

令和4年度墨田区地域ケア会議における検討のまとめ

1 令和4年度墨田区地域ケア会議の検討テーマについて

高齢者支援総合センター圏域において、多職種の視点から個別の高齢者の自立支援重度化防止等の検討や背景となる地域課題の抽出を行う地域ケア個別会議と、専門職のほか町会・自治会や民生委員・児童委員、見守り協力員等地域の関係者とともに地域課題の解決に向けた検討等を行う地域ケア推進会議を実施している。墨田区地域ケア会議では、各圏域で検討された全区的に共通する課題の抽出により設定したテーマについて検討を行う。

昨年度実施した令和3年度の墨田区地域ケア会議では、「コロナ禍における高齢者の社会参加を考える」をテーマとして、コロナ禍における自主グループの活動継続の工夫等を共有した。しかし、自主グループ活動につながらない高齢者の支援については継続課題となった。

また、圏域における地域ケア会議の結果からは、参加のニーズを持ちつつも交流や活動につながらない高齢者の孤立やフレイルを防ぐため、一人ひとりの状態や個性に対応した活動や通いの場が必要であるという課題が多く挙がっていた。

こうしたことから、ニーズを持つ高齢者の地域における活動参加を促進することを全区的な共通課題とし、「地域における高齢者の活動について」をテーマに課題の共有と必要な対応策について検討を行った。

2 共有した課題及び取り組むべきこと

(1) 自主グループ等の活動場所に関すること

ア 課題

高齢者の活動への参加促進のためには、自宅から近く移動できる範囲に活動場所があることが必要であるが、地域によって、高齢者の活動に適したスペースが少ない場合がある。

また、施設利用料の負担が活動継続にあたっての課題となっている。コロナ禍の影響により、感染対策のため少人数で活動することになり、一人当たりの施設利用料負担額が大きくなったことも影響している。また、同様にコロナ禍の影響で、民間等で貸し出していた施設の利用が休止しているケースも見られる。

イ 取り組むべきこと

全庁的に関係各課が連携し、高齢者を支えるため使用できる区施設のスペースの活用を進める必要がある。また、民間事業所等のスペース提供を促進する仕組みを作るとともに、活動場所に関する情報を集約及び整理し、活動者に提供できるようにする。

(2) 高齢者の活動の機会に関すること

ア 課題

新型コロナウイルスの影響による参加の機会の減少や、ニーズを持ちつつも活動等の機会に結びつかないことにより、フレイルや孤立の状態につながることで、全区的に課題として挙げられている。体力に自信がない場合も屋内の活動であれば参加できる、歴史や読書に関する活動であれば男性の参加が多くなるなど、状態や興味、関心に合わせた多様な参加の機会があることで、高齢者の活動等

への参加を推進することができる。また、男性が参加しやすい機会が少ないことも課題である。加えて、老化や疾病等による心身の変化や介護サービスの利用を契機に、地域の通いの場等への参加を止め、つながりが途絶えてしまうことも課題となっている。

イ 取り組むべきこと

介護保険の認定を受けるなど、心身の状態の変化に応じて参加しやすい活動や、興味・関心に合う活動、得意なことを生かせる活動、オンラインを活用した交流など、多様な機会の創出を図る。また、グループとしての活動以外でもゆるやかに人と交流したり自然と体を動かしたりできる資源の把握やマッチングを行う。

(3) 活動の人材に関すること

ア 課題

町会、自治会を基にした活動が多く行われているが、担い手が高齢化している場合もあり、新たな担い手が加わるきっかけ作りが重要である。

また、高齢者がニーズや状態にあった地域の資源の情報を得られていない場合がある。高齢者のニーズと資源とのマッチングを促進するためには、高齢者に関わる事業所等の専門職からの働きかけが有効である。しかし、そうした資源の情報が専門職に届いていない場合も多くみられる。

イ 取り組むべきこと

活動に関わる情報を一元的に整理し、区報等による全区的な発信のほか、高齢者と関わる専門職が情報を知り高齢者と地域資源のマッチングを促進するなど、多様な高齢者のニーズに合わせた情報発信を行う。

(4) その他

共生型の社会を目指していくため、行政のほか、高齢者支援総合センターや地域、個人など様々なセクターでできることを拡大していく必要がある。